



## 秋の夜長を本とともに

「秋の日はつるべおとし」。つるべというのは、井戸で水を汲むための綱をつけた桶などのこと。日が暮れるのがつるべを落とすように早く感じる秋は、夜が長いということでしょう。虫の声を聴きながら読書を楽しむのにぴったりです。

## 決定！！第165回直木賞

2021年上半期 直木賞は佐藤究さんの「テスカトリポカ」、澤田瞳子さんの「星落ちて、なお」に決定しました。

## 上半期貸出トップ10を発表！！

今年度のクラス別天高貸出数トップ10を発表します。

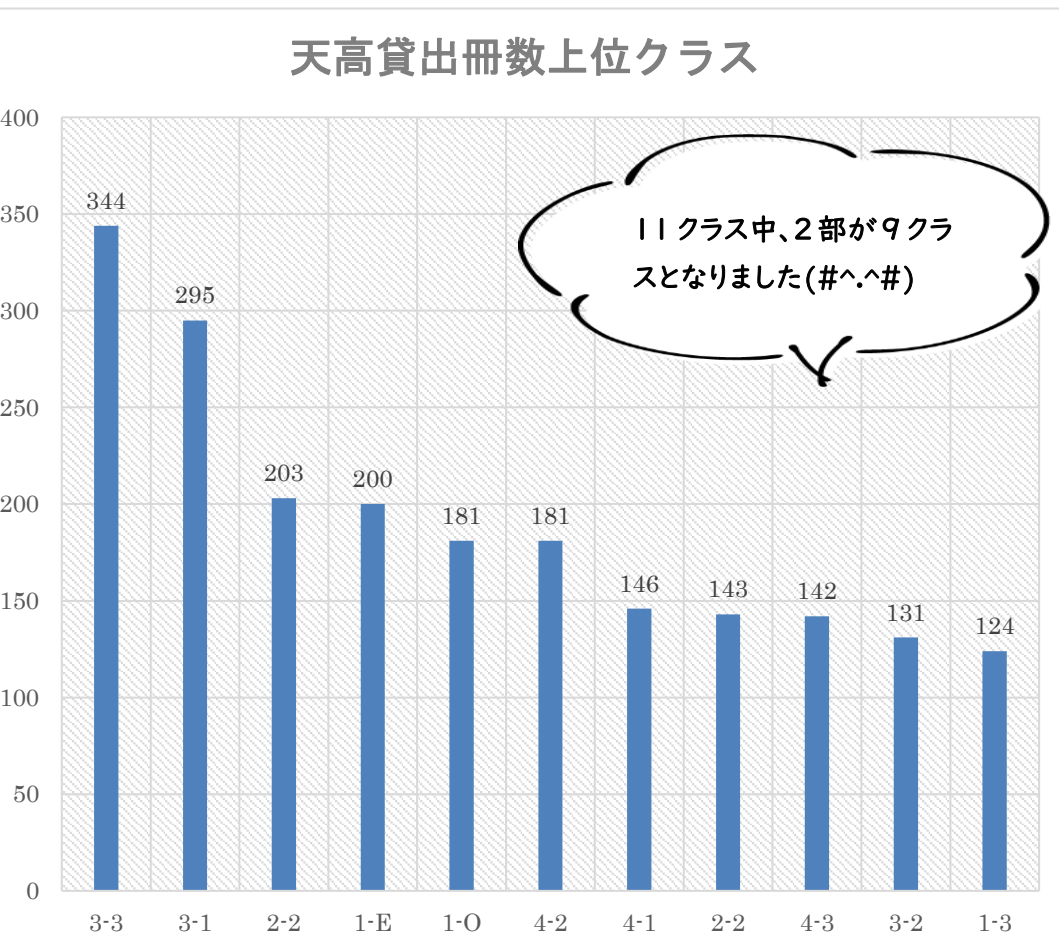
**1位 2部3-3    2位 2部3-1    3位 2部2-2**

となりました。いつも図書館を利用して、ありがとうございます。(詳しくは、下記のグラフをご覧ください。)

貸出合計冊数は、3940冊でした。(昨年度は2889冊)

昨年度より1000冊増加です。とてもうれしい結果となりました。(＃^^＃)

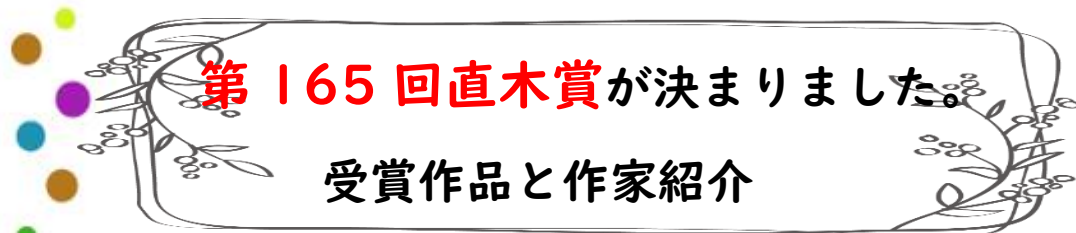
図書館は新しい情報を知るのに、最適の場所ですし、一人で気持ちを落ち着ける場としても、とてもよい所だと思います。気になる事、知りたい事があれば、遠慮なくカウンターに尋ねてください。これからもどんどん、図書館を利用してください。



## 天高人気本ベスト3はこれだ！！

4月から7月までで貸出回数の多かった本、3冊紹介します。

- |    |              |          |     |
|----|--------------|----------|-----|
| 1位 | か「く」「し」「ご」と  | 住野 よる 著  | 10回 |
| 1位 | わたしの幸せな結婚[1] | 顎木 あくみ 著 | 10回 |
| 2位 | わたしの幸せな結婚 2  | 顎木 あくみ 著 | 9回  |



## 第165回直木賞が決まりました。

### 受賞作品と作家紹介

『テスカトリポカ』 佐藤 究 (きわむ) 著 (KADOKAWA)



メキシコで麻薬密売組織の抗争があり、組織を牛耳るカサソラ四兄弟のうち三人は殺された。生き残った三男のバルミロは、追手から逃れて海を渡りインドネシアのジャカルタに潜伏、その地の裏社会で麻薬により身を持ち崩した日本人医師・末永と出会う。バルミロと末永は日本に渡り、川崎でならず者たちを集めて「心臓密売」ビジネスを立ち上げる。直木賞と山本周五郎賞のダブル受賞した究極のクライムノベル！(出版社HPより)

『星落ちて、なお』 澤田 瞳子 著 (文藝春秋)

不世出の絵師、河鍋暁斎が死んだ。残された娘のとよ(暁翠)に対し、腹違いの兄・周三郎は事あるごとに難癖をつけてくる。早くから養子に出されたことを逆恨みしているのかもしれない。

暁斎の死によって、これまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。兄はもとより、弟の記六は根無し草のような生活にどっぷりつかり頼りなく、妹のきくは病弱で長くは生きられそうもない。河鍋一門の行末はとよの双肩にかかっているのだった。(出版社HPより)

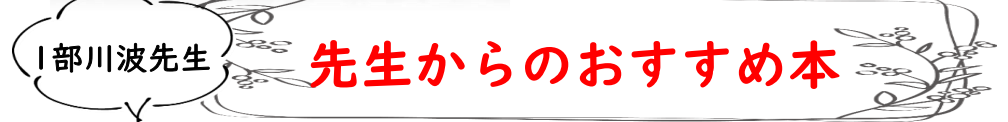


『わたしの幸せな結婚』 顎木 (あぎとぎ) あくみ 著 (KADOKAWA) 全5巻



継母と義母妹に虐げられて育った美世は、冷酷無慈悲と噂の若き軍人・清霞への嫁入りを命じられた。初対面で辛く当たられた美世だったが実家に帰ることもできず、日々料理を作るうち、少しずつ清霞と心を通わせていく。

ファンタジー要素もある和風シンドレラストoryー！！



『「かりもの」のからだのふしぎ』 仙田 善孝 三宅 雅史 共著



「人体のしくみや働きの中で医者にとっては常識でも一般の人にとってはびっくり」という内容をトピックスで紹介しています。

未信者の医師が天理教教会長との対談やエッセイの中で、「天理教の教えが生物学や医学と矛盾しないだけでなく、科学の発見よりも先に人体の働きの本質について言い当てていたことに気づかされるようになりました。科学は神が決めた真理を後追いし、裏づけているのです。」と述べられています。(理科 川波 太先生)